

■桂文左衛門(2代桂文枝) 落語家。芸に優れていただけでなく、病弱ながら分裂後の桂派を統率、多数の弟子を育てた。

かつらぶんざえもん

天保改革終・1844= 紀州粉河生まれ。

阿部正弘首座1845= 1歳 :

ペリー来航・1853= 9歳 :

子どものころから落語好きで、

松下村塾・・1856=12歳 : 丁稚奉公に出、

かたわら南光の名で素人唄に出ているが、

桜田門外変・1860=16歳 :

生麦事件・・1862=18歳 :

明治維新・・1868=24歳 :

戊辰戦争終・1869=25歳 : 京都で3代立川三光の門人となり、三木助の名前をもらう。

廃藩置県・・1871=27歳 :

学問のすすめ1872=28歳 : *大阪で初代桂文枝の門に移り、初代桂文三と改名、同じ頃入門した初代桂文之助、2代桂文都、初代桂文団治とともに四天王と呼ばれる文枝派最高幹部として上方落語界に確固たる地位を占めるようになる。

明治6年政変 1873=29歳 :

佐賀の乱・・1874=30歳 : 桂文枝が死去すると、四天王のだれが跡を継ぐかが問題になり、

西南戦争・・1877=33歳 :

・ ・ ・ ・ ・ 1880=36歳 : 七回忌の年、文枝未亡人から故人の遺言として指名されるが、四天王の筆頭文之助から苦情が出て、

明治14年政変1881=37歳 : *ようやく2代文枝襲名が実現した。

内閣発足・・1885=41歳 : *文都と衝突、長期間大阪を留守にしていた文之助と騒動中に急死した文団治を除き、全上方落語界が文枝派と文都派に分裂する珍事となる。

帝国憲法発布1889=45歳 :

両者それぞれ桂派、三友派に発展、たがいに相手を凌駕せんものとしのぎをけずり、上方落語界は空前の黄金時代を現出。文枝は病弱で絶えず休席しながらもよく桂派を統率し、大師匠として盛名をはせる。

日清戦争始・1894=50歳 :

子規句歌革新1898=54歳 :

日露戦争始・1904=60歳 : 初代桂小文枝に3代目をゆずって文左衛門と改名。

日露戦争終・1905=61歳 :

韓国反日暴動1907=63歳 :

アラク 創刊・1908=64歳 : *咽喉の不調で高座を引退、

桃子と名のつて道楽の心学道話や俳句を楽しんでいたが、

韓国併合・・1910=66歳 : 以降、中風を病み自宅療養、

明治天皇没・1912=68歳 :

民本主義・・1916=72歳 : 脳溢血で没した。

芸の実力だけでなく、一門統率の手腕、門人育成の力量にもひいで、多数の弟子を育てた。